

学校番号	学校名	校長名
64	川崎市立久末小学校	齊野 保史

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>【共に笑顔で輝き合う学校をめざして】</p> <p>○経営方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 一人一人が互いに尊重し合う学校【共に】 確かな学力をつけ、学ぶ楽しさを味わうことのできる楽しい学校【笑顔】 仲間と生き生きと健やかに過ごす学校【輝き合う】 子どもや保護者、地域から信頼される、開かれた学校 子どもや保護者、地域と共に学ぶ教職員 <p>○経営目標</p> <p>めざす子ども像</p> <p>【約束を守る子】【思いやりのある子】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げていく。 <p>【根気よく学ぶ子】</p> <ol style="list-style-type: none"> 学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育ていく。 <p>【たくましい子】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。 <p>私たち大人</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。 子どもたちの学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。 	<p>めざす子ども像に対応して</p> <p>1に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 気持ちの良いあいさつの日常化を図る。 自分のできることを増やし、仲間と共に活動する場を広げていく。 学校の約束、学級の約束、先生との約束、友達との約束を確認する。 教育活動を通じて、自分を大切にす、また他人を思いやる心や正義を重んじる心等、豊かな人間性を育み、いじめの未然防止に努める。 <p>2に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 「久末ナビ」を生かし、基本的な学習ルールの定着及び基礎学力の向上をめざし、学ぶ意欲の伸長を図る。 友達とのかかわりを通して、よりよい方法を見いだす楽しさや根気よく学ぶ大切さを実感させる。 GIGA端末活用を通して、各教科等での学びをつなぎ、探求し、課題を解決できるようにする。 朝の読書タイムの充実や読書ノートの活用を図り、本に親しむ心情を育む。 <p>3に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 「久末ナビ」を生かし、生活習慣の定着を図る。 キラキラタイムを通し、運動への関心を高めていく。 学校保健、学校給食を通して健康教育の発展を推進するとともに、友達の体を思いやる優しい気持ちを育てていく。 交通安全指導、防犯防災指導や勤労生産・奉仕的活動の充実を図る。また子どもたちにとって安心安全な環境づくりを計画的に進める。 <p>私たち大人に対応して</p> <p>4に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域や家庭との連携を大切にし、学校の様子を積極的に発信することで、子どもたちへの理解の在り方を共有していく。(コミュニティスクール会議・学校公開・教育相談・学校説明会・学校報告会・学校HP・小中連携・幼保小連携) 地域の人や環境とのかかわりを大切にする教育活動を大切にし、我が町「久末」で学び、「久末」のよさを伝えていく心を育てる。 <p>5に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもたちの困り感に寄り添うべく、チームによる児童支援活動の推進を図る。 人権尊重教育の日常化を図り、命を大切にする心を育てる。 個に応じた指導を工夫し、個別最適な学びの場の充実を図る。 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。(学びをつなぎ、学びを推進するファシリテーターの役割を意識して) 学年教材研究、交換授業を充実させて、指導と評価の充実を図る。 校内研究【算数】を充実させ、わかる楽しさ、共に学ぶ楽しさを大切にした授業の創造を図る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 【約束を守る子】【思いやりのある子】 人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げていく。	1. あいさつの日常化を図る。 2. 縦割り交流活動の推進と充実に努める。 3. 久末スタンダードの見直しと確認をする。 4. 教育相談の充実と、いじめ、不登校の未然防止対策の充実に努める。	1. 学校アンケートで子どもたちの肯定的な回答率は81%で、昨年度から引き続きよい回答率だととらえている。昨年度少し低かった高学年の肯定的な回答率だったが、今年度は高く、全校にあいさつしている姿勢が定着しているようだ。 2. 6年生は最上級生としての責任を果たそうと努力し、年度末には新リーダーとしての5年生にバトンを渡すことができた。よい流れができているが、活動内容にさらなる工夫がほしいと思っている。 3. アンケートでは81%の子どもたちが「時間を守ること」の大切さを自覚していると回答している子どもたちはふだんの学校生活で、ノーチャイムで時計や放送を意識して行動できている様子が見られる。特に高学年では、言われて動くのではなく、時計を見て自分で判断して行動する姿もあった。 4. 今年度もSC,COとの連携を充実させながら、保護者の方々の相談や児童の困り感に寄り添うべく面談の実施を計画的に実施してきた。昨年度から時々見られたSNSを発端としたトラブルでは、スマートフォンの扱いやSNSについては家庭にも協力をお願いしてきた。学校公開日等で情報モラルを扱う授業を公開し、保護者にも共に学んでほしいという思いを伝えてきた。参加した保護者からは「いい話だった」というような声も聞かれたが、出席率は高くはない。	1. あいさつを含め、言葉の大切さを朝会等で子どもたちに伝えていく活動にこれからも取り組みたい。また、児童発信の「あいさつ運動」についても、引き続き支援していきたい。 2. コロナ明けでリスタートできた活動もだんだんと日常になってきている。子どもたちの姿勢を認め、これからも支援していきたい。新たな活動についても、計画を立てる段階で大人からのアドバイスができるようにしたい。 3. 学校アンケートで、保護者から76%の肯定的な回答ももらっている。子どもたちは、学校での指導だけではなく、家庭生活でも時間を守ることの大切さを学んでいることがうかがえる。これからも学校と家庭が同じ価値観をもって一緒に子どもたちの成長を喜びたいと思う。 4. これからも年度末から年度始にかけての児童の情報の引継ぎを慎重に行っていく。情報共有、伝達の時間の確保に努める。学校評価アンケートでは「困った時に相談できる」と回答した児童は86%であった。昨年度から10ポイントアップしたが、10%の子どもたちが否定的な回答をしていて、「みんな」が安心できているのではない現状を受け止め、さらに児童にとって相談しやすい環境整備に尽力していく。情報モラル教育については、今後も学年に応じた内容で実施していきたい。また学校だより等を通して、保護者にも内容を伝えるとともに、公開授業への参加を呼びかけたい。今年度の学校報告会の資料やこの「自己評価報告書」を目にした保護者から「次は自分も参加したい」という声があがることを期待している。
2 【根気よく学ぶ】 学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育てていく。	1. 学ぶ意欲の伸長を図る。 2. 主体的・対話的で深い学びの具現化を図る。 3. GIGA端末の積極的活用を行う。 4. 読書タイムの充実に努める。	1. 今年度は、算数科を通して、授業改善について検討を重ねてきた。今後も研究を通して、さらに魅力ある授業作りに尽力し、児童の肯定的な回答率のポイントアップを目指した。学習した内容の定着については、あまり、芳しい状況ではないようだが、子どもたちの学習に向かうとする気持ちは毎年少しずつ高まってきているように感じている。 2. 学びの姿をより深いものに導くためには、自らの学びの姿を俯瞰的に捉えるといったメタ認知の確立が必要だと考えた。今年度は、学習過程を振り返りながら、今の学びは、どの経験が生きているのか、またどこに繋がっていくのかを理解するための自己評価活動の充実に努めてきた。 3. 校内の情報部会を中心にGIGA端末の授業での効果的活用について考え、共有を図ってきた。「各教科等の学びが他教科等や生活につながる」という観点を重点目標として、指導に当たった。 4. 週に一度の読書タイムを充実させていくために、事前に読む本を決めておく、自分の机に準備しておくなど、限られた時間の有効活用について、児童とともに確認した。	1. これからも様々なことのかかわりを楽しみながら学習を進めていけるよう、研修研鑽に努めていきたい。 2. より深い学びへと繋げるために、基礎学力の定着が必要だと考えている。学校評価アンケートの結果では79%の子どもたちが「久リンピック」や「Mタイム」の学習で力が伸びていると感じているので、この頑張りが結果となり、自信につなげていけるよう、粘り強く指導していきたい。 3. 情報部会を中心に、教職員が研修を重ね、多くの場面で活用することができている。GIGA端末に新しく加わった機能を生かしてどのような学習ができるかを考えていきたい。 4. 司書教諭や学校司書が中心となり、図書ボランティアさんのご協力をいただき、図書環境の充実に努めてきた。また、地域の方々による「読み語り」も継続している。その他にも図書委員会の児童による読み聞かせの活動にも取り組んだ。学校評価アンケートでは「読書が好き」という質問に対しての肯定的な回答が減ってきているので、これまでの活動を継続していくとともに、家庭にも声をかけて、よりよい読書環境をつくっていききたい。

3	<p>【たくましい子】 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣の定着を図る。 運動への関心を高める。 健康教育の推進を図る。 安全な環境作りに務める。 	<ol style="list-style-type: none"> 「学校に行くことが楽しい」という質問に子どもたちの肯定的な回答率は83%だった。保護者の回答率も82%とほぼ同じである。多くの子が学校での活動を楽しみにし、登校している。しかしスタートが時間的に遅れてしまうことにより、気持ちはもちながらも、うまく活動に参加できない子もいる。 「運動したり、体を動かしたりすることが好き」という質問に対して、子どもたちの肯定的な回答率は85%、保護者からも81%という回答があった。「運動することが好き」という子どもが多いことがわかる。 学校評価アンケートでは、84%の子どもたちが「安全に気をつけている」と回答している。今年度は廊下や階段の歩き方について学年集会の中で話題になり、自分たちで気をつけられるよう、ポスターをつくって掲示するような活動があった学年もあった。 「火事や地震などにあったら、どのように対応したらいいか知っている」の質問に対して、子どもたちの肯定的な回答率は93%だった。年6回の避難訓練の際、約束をしっかり守っている様子が見られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 「学校に行くことが楽しい」に対して否定的な回答率が15%（保護者は17%）という現状を真摯に受け止めている。来年度にむけての改善点を明らかにしていくべく検討を進め、学年や諸行事の取組などを見直したい。今後も保護者の皆様や地域の皆様の力を借りて「明日も楽しみな学校」を目指し、改善に努めたい。 児童会を中心とした「キラキラタイム」の推進に努めていく。本格実施となる「みんなの校庭P」においても、用具や環境も整えていく。 集団生活をしている以上なかなか防ぐことができない怪我はあるが、今後もこれからもルールを守っているところは大いに認めながらも、そうではないところについては指導を継続していきたい。 自分の身を守るためにどのような行動をすればよいかを自分で正しい判断ができるよう、これからも指導していきたい。実際の災害時に、学校での訓練を学校外でもいかせるような視点を大切にしていきたいと思っている。
4	<p>学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携を大切にする。 「久末」で学び、「久末」のよさを伝えていく。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間を通して児童の学校生活の様子を家庭に知っていただくこと、月に一度の学年ページの更新や日常の様子を紹介を行った。また、久末コミュニティ会議や小中連携でも本校の取組を伝えることで連携の充実を図ってきた。ペーパーレスの推進を図るために、学校だよりと学年だよりを一本化し、データ配信にした。 各学年における栽培・収穫活動は、地域の方々のご指導をいただきながら継続して行っている。児童の多くが「久末の自然、新鮮な野菜が自慢」と答えている。そこに関わってくださる地域の方々との交流も継続し、我が町久末に愛着をもち、地域でのびのびと育っている様子が見えてくる。コロナ禍のためしばらく途絶えていた「久末音頭」の音源、動画、楽譜を発見でき、子どもたちへの指導を始めた。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会や報告会などでは、保護者の方々の出席率をさらに上げていくことで、児童理解の在り方の共有を進めていくことが大事なことだと考えている。学校評価アンケートの回答率を上げて、より多くの保護者から意見をもらうことが家庭や地域との連携を強くしていくことにつながると考えている。 これからも栽培活動に限らず、地域の方々に見守られ、愛されていることを、様々な教育活動の中で実感させることが大切だと思う。生活科や総合的な学習の時間、道徳など、指導者がしっかりと視点をもちながら、授業を進めていくことの共通理解をさらにしっかりしていきたい。今年度から指導を始めた「久末音頭」は引き続き指導を行い、「ふるさと祭り」等の行事で披露し、学校から地域へ発信していくことも考えている。

5	<p>子どもたちの学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームによる児童支援活動の推進を図る。 2. 人権尊重教育の日常化を図る。 3. 個別最適な学びの場の充実を図る。 4. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。 5. 学年教材研究、交換授業を充実させ、指導と評価の充実を図る。 6. わかる楽しさ、共に学ぶ楽しさを大切に授業の創造を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月の児童支援部会、打合せでの児童支援報告を行い、全教職員の共通理解のもとチームとして児童支援にあたってきた。指導の実際の場面では、管理職やコーディネーターからのアドバイスを受けて行うことができた。 2. 人権尊重教育推進教諭を中心に研修を行い、「かわさき子どもの権利条例」の理解を深めることができた。子どもたち一人一人が自分や周りの人がもつ権利について理解を深めるための指導を道徳の時間を中心に行うことができた。 3. 個に応じた学びの場は、昨年度から引き続き、教室での集団の学習から離れて、個のペースに合わせて学習できる時間を設けてきた。子どもたちのより深い理解につながった。GIGA端末を使った個別最適な学びについては、リーダーとなる教員が校外での研修を行い、情報部会等で内容を伝えてきた。 4. 防犯、GIGA端末の授業での活用、特別活動の進め方等の研修を実施してきた。防犯については、校内で進め、GIGA端末の授業での活用、特別活動の進め方は総合教育センターの指導主事、特別活動研究会の常任委員(役員)の方に来ていただき、指導を受けた。研修を日々の実践に繋げていこうとする意欲が高まった。また、校内研究でも、外部講師をお招きし、本校の実態にあった研究の進め方について指導を受けた。授業提案を7回実施し、全員で参観し、研究を進めてきた。児童の実態を踏まえた学習展開の工夫についての共有や検討を行っている。 5. 学年会において、皆で教材研究を進め、共通の目標に向かっての手段や手だての共有の推進に努めていった。高学年における交換授業は年間を通して実施し、児童理解の充実に繋がった。専科指導は高学年の音楽、体育、書写で、中学年の音楽(4年のみ)、書写、外国語活動で行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 来年度も毎月の児童支援部会で、今起こっている課題について話し合い、全教職員の共通理解のもと指導に当たりたい。児童の抱えている困り感を早めに関心し、指導に生かせるような研修も行いたい。 2. 道徳の時間以外の活動でも人権を意識した声かけ等、教師が意識して行っていきたい。教科指導や生活指導からのアプローチで、今後さらに人権尊重教育を推進できる方法についても考える機会をもちたい。 3. 現在行っている指導に加えて、GIGA端末を使った「個別最適な授業」の実践等を見る機会をつくり、自分の授業改善につなげられるような研修に取り組みたい。 4. 来年度も長期休み前に、教職員に自分が取り組みたい指導法等の研修希望をとり、講師を招いての校内研修を行いたい。教職員の「やりたい」気持ちを大事にして計画を立てたい。校内のミドルリーダーのもとに若手教員が集まり、個々の抱える学習指導や生活指導に関する課題について自由に意見交換ができる研修会については引き続き行いたい。
---	---	--	--	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
----------	----------

○久末コミュニティスクール会議

6月と2月に2回行った会議で、学校運営計画(6月)学校評価(2月)について校長から説明し、昼食後に授業参観を行い、ご意見をいただいた。

- ・子どもたちは学習中の聞く姿勢が良くなっている。日々、「聞くことの大切さ」を意識して指導していると聞いている。他人の話をきちんと聞く力が身につけてからでなければ、自分の考えを持つことは難しいのでこれからもしっかり指導して行ってほしい。
- ・子どもたちは明るく、校外で出会ったときには「こんにちは」と元気に挨拶をしてくれる。久末小では、ずっと「挨拶をしよう」ということに取り組んできたことが成果となって現れているのだろう。今日の授業参観でも目が合うと挨拶してくれた。
- ・学校評価アンケートの結果から自己肯定感の高い児童が多いことが分かる。恵まれた環境の中でのびのびと育っている子どもたちが多いこの地域で、しっかりと自信をもって学校生活を送っているのだと思う。
- ・6年生のキャリア教育がとてもよい。これからの時代、自分の人生について能動的に自分から考えていかなければいけない。こんなことをしていきたい、そのためには何をしたらよいのか、など自分で考えながらやっていける子どもになってほしい。

○昨年度からコロナが5類になり教育活動の制限が大きく緩和されている。コロナ禍で経験した取組の中で、今後も有効であろうと思われることには積極的に取り組んでいこうとする姿勢は、今年度も持つことができた。新しい時代のスタンダードとなりつつある。

○児童理解・児童指導には引き続き重要項目として取り組み、児童一人一人の思いをしっかりと受け止めた学年・学級経営が行えるようにしたい。児童の様子、困り感等を複数の教員で共有し、チームを組んで指導に当たれるようにしたい。

○教育相談を有効的に活用し、必要に応じて区教育担当、児童相談所等の外部機関とも連携を取りながら、子どもにとって最適な環境は何かを考え、支援をしていきたい。

○今年度も課題となった基礎学力向上のため、教師一人一人がさらに授業力を高められるようにしていく。そのため校内研究を通して、児童の興味をひき、関心を高められるような学習展開について重きをおいて研究を進めていきたい。

○GIGA端末を使った学習については、ステップ3の進化をめざして活用していくことができている。この力を「個別最適な学習」につなげられるよう、研修をしていきたい。

○子どもたちの聞く姿勢や進んで挨拶をしようとする姿勢は育ってきている。継続できるよう指導を続けたい。

○校内研究を通して一人一人の授業力の伸びを感じている。来年度は校内研究の全体のテーマでもある「もっとやりたい、学びたい」に立ち返って、授業をつくる力を伸ばしたい。

○学校評価については、保護者のアンケートの回答率が微増した。教育活動の目的を理解し、協力していただけるよう、学校説明会や懇談会等で発信をしていきたい。

○キャリア在り方生き方については、6年生の姿について学校関係者から、お褒めの言葉をいただいた。この6年生の姿を目標に、自分の人生について能動的に自分から考えていけるよう指導していきたい。

○地域の支えがあって日々の教育活動を充実させることができていることを再認識しながら、地域との連携をさらに充実させていきたい。